

4-(1)- 教育力向上の取り組みの概要

区分	機能
第1回 学内研修会	<p>平成23年度 「講義の復権」 - 講義系授業をいかにパワーアップするか -</p> <p>効果的な講義を求めて - 教育心理学活用の観点から議論を深めていく。 講演 講師 梶川裕司教授(京都外国語大学)(17:15～18:00) 参加者:約50名</p>
第2回 学内研修会	<p>平成23年度 「優れた授業とは何か」 - 進学・就職決定率から考える -</p> <p>趣旨 学長会にて「建学の理念達成のため」に「教育目標」「経営目標」の両方から、「芸工大にとって重要事項はなにか」を検討している。そこで確認されたのは、「優れた学生」「優れた指導体制」「優れた授業」であった。教養教育センターはこれを受けて、「進路・就職実績の向上」から、芸工大生にとって必要な教養教育とは何かを考えている。また、それをもとに教養教育カリキュラムを再編し、2013年度からの実施を期している。 本FDセミナーでは、重要事項のうち「優れた授業」について、全学に問いかけ全学的に討論する。</p> <p>参加者:約70名</p>
第1回 初年次教育報告会	<p>平成23年度 新・教養ゼミナール報告会</p> <p>今年度からスタートした新・教養ゼミナールの活動内容と成果を全学に向けて発信し、「一年生祭」と連携し、学生参加型のFDとして実施する。</p> <p>参加者:約120名(学生参加数含)</p>
第2回 初年次教育報告会	<p>平成23年度 新・教養ゼミナール(農芸クラス)報告会</p> <p>概要 ・農芸クラスの2年目を終え、改善策について担当者間で徹底的に検討する。 ・シラバス、授業ポートフォリオ、などの結果等を踏まえて、今年度の振り返る。 ・授業評価アンケート結果を分析し、課題を発見し提起する。 ・提起された課題について、全体で改善策を議論し、次年度のシラバスに反映する。</p> <p>参加数:約30名</p>
授業評価アンケート	<p>平成23年度前期授業評価アンケート実施 教養や教職課程の科目を始め、各学科の講義を対象に実施 実施された560科目は、前期の学部の総授業科目数710科目の78.9%であり、前期の全科目の学部の総受講者数(全受講者の延べ人数)20,227人のうち、本アンケートの対象となった受講者は延べ人数で17,217人(85.1%)で調査</p> <p>平成23年度後期授業評価アンケート実施 教養や教職課程の科目を始め、各学科の講義を対象に実施 実施された513科目は、後期の学部の総授業科目数634科目の72.3%であり、後期の全科目の学部の総受講者数(全受講者の延べ人数)17,258人のうち、本アンケートの対象となった受講者は延べ人数で15,886人(92.0%)で調査</p>

区分	機能
学修・生活アンケート	<p>平成23年度 学修・生活アンケート</p> <p>実施目的 本調査は、本学に在籍する学生の実態(学生としての意識、生活状況等)を知ることによって、教育内容の改善を図る事を目的とする。</p> <p>調査方法 1 対象:全学生 回答者数は、743名(回答率36%)であった。 学年ごとでは1年生305名、2年生221名、3年生152名、4年生65名の回答数である。また、今年度も調査用紙に記入する方法を採用せず、NETBSU+のアンケートシステムを利用して実施した。</p>
TA(ティーチング・アシスタント)の活用	<p>平成23年度</p> <p>TA実施学部科目数119科目(述べ数) TA実数:84名任用</p>
FDネットワークつばさ	<p>関東以北の大学で組織するFDネットワーク“つばさ”に参加し、授業改善、カリキュラム・教育制度改革などについて連携しています。</p>
教務事務の改善	<p>宮城県地区私立大学教務事務研究協議会(14大学・短大で組織)に参加し、カリキュラム・学生支援・関係法令改正対応などについて、教務、学生支援、進路支援等を担当する職員が毎年定期的に研究協議を重ねています。 平成23年度は東日本大震災の影響により役員会のみ開催</p>